年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　　2022 年　　4 月　　15 日
● 事　業　名　：　子どもの未来のための協働促進助成事業：　日本初の LGBTQ センター「プライドハウス東京」設立プロジェクト
● 資金分配団体　：　特定非営利活動法人エティック
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人グッド・エイジング・エールズ
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
A）コンソーシアム体制 多主体が連携した組織で会議運営と基盤強化を行う	<定量>官民産学ネットワークによる定期的なコレクティブ会議の開催 <定性>サステナブルな事業の実施	<定量>80 主体による、全体会議（2 回/年）とチーム会議（1 回/月/7 チーム） <定性>運営主体法人化に向けた準備	<定量>2022 年 3 月末 <定性>2023 年 3 月末	<定量> 72 主体による全体会議を 2 回/年、チーム会議を 2 回～4 回/月/8 チーム <定性> 代表交代も視野に入れた新法人立ち上げのネクストチームを組成	2

B）センター機能 拠点となる日本初の常設LGBTQセンターを立ち上げ、啓発・支援事業を行う	<定量>①LGBTQ センター訪問者数、②イベント参加数、③相談支援利用者数 <定性>常設 LGBTQ センターの設立	'<定量>年間のべ：①12000 人、②3000 人、③1500 人 <定性>運営主体法人化に向けた準備	＜定量＞2022 年 3 月末 ＜定性＞2020 年 10 月	＜定量＞ ①3500 人、②、③ ＜定性＞ 代表交代も視野に入れた新法人立ち上げのネクストチームを組成	2
C）情報プラットフォーム機能 子ども・若者を中心とした全ての人たちが、正しい情報にアクセスできるように、情報集約と整備を行う	'<定量>①オフライン LGBTQ 関連書籍所蔵数、②オンライン LGBTQ 関連団体数・イベント掲載数 <定性>実態調査結果共有によるニーズの可視化	<定量>①3000 冊、②団体数 100、イベント数 200 <定性>高校生意識調査結果の可視化	＜定量＞2022 年 3 月末 ＜定性＞2022 年 3 月末	＜定量＞ ①2500 冊、②未掲載（現在、全国団体との連携を行なっている。イベント等の掲載プラットフォームは 2022 年度に） ＜定性＞ コロナのため実施スタートが遅れ、現在、実査中。	3

D）アウトリーチ機能 日本全国へ啓発・支援を届けるための仕組みを構築し、適切に届ける事業を行う	'<定量>①相談支援アウトリーチ数、②支援者育成プログラム参加者、③オンライン授業数・配布数 <定性>地域 LGBTQ 支援団体設立のサポート	'<定量>①10 回/120 人、②60 人、③10 校・100 セット配布 <定性>東京以外の都市で 3 箇所	＜定量＞2022 年 3 月末 ＜定性＞2023 年 3 月末	＜定量＞ ①全国 6 都市にて「地域連携」「出張レガシー」を実施/80 人ー300 人、②、③ ＜定性＞ 2 箇所：Pride Center Osaka（大阪）の立ち上げ時リソース支援、金沢レインボープライド（石川）の人的支援	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値

3. 活動に関する報告
2021 年度は、日本初の常設総合 LGBTQ＋センター「プライドハウス東京レガシー」の活動を軌道に乗せ、安定的な運営体制を構築するという「守り」のアプローチと、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会という世界的なイベントの機会を活用し、スポーツやアスリートはもちろん、様々な LGBTQ+との接点において情報発信を行う「攻め」のアプローチを、両立推進していく 1 年間となりました。コンソーシアムにおける 8 つのチームそれぞれにおいて、NPO・専門家、企業、自治体、大使館などのステークホルダー同士による協働を展開しました。 ①教育・多様性発信チーム：一人ひとりの性の多様性に加え、家族の多様性を発信するプロジェクトを幾つか実施。宝塚大学日高先生とは、LGBTQ＋の子どもを持つ親の意識調査も実施し、LGBTQ+の子ども・若者を取り巻く環境における課題の可視化を行なった。また、全国 3 箇所で「出張レガシー」と題して、アウトリーチ施策を展開した。「トビタテ！留学 JAPAN」の派遣留学生とともに、ユースから全国のユースに届けるためのコミック・エッセイ書籍をつくるプロジェクトも立ち上げ、クラウドファンディングを通して資金調達と情報拡散を行なった。（書籍は 2022 年 4 月完成） ②文化・歴史・アーカイブチーム：LGBTQ+コミュニティ・アーカイブ事業の一貫として、LGBTQ+やジェンダーに関する書籍ライブラリーを強化し、約 2500 冊の蔵書を整理した。また、絵本・コミック・児童書・入門書などの子ども・若者向けのライブラリーと本棚を増設した。オンラインで多世代の当事者が LGBTQ+カルチャーについて語る企画も実施、ユースにとってのロールモデルの可視化を目指した。 ③ウェルネス・サポートチーム：24 歳以下の LGBTQ+、もしくは、そうかもしれないと思う子ども・若者への無料相談支援プログラム「ラップアラウンド・サポート」を開設。全国の LGBTQ+支援団体をつなぐオンラインイベントを通して、同プログラムの告知も行なった。ユースがユースを支援する仕組みとして、「ユースピアリーダー」プログラムも立ち上げた。より脆弱な環境にあるトランスジェンダー、HIV 陽性者などへの支援を視野に、各種展示施策を行なった。 ④アスリート発信チーム：東京 2020 大会を最大契機と捉え、オリンピアン・パラリンピアンを含む当事者・アライアスリートからのメッセージ動画やメッセージパネルの制作、アメリカの NGO「アスリート・アライ」と協働で競技団体・リーグ向けの啓発冊子・配布を行なった。また、サッカーやラグビーの試合会場における情報発信「プライドマッチ」企画も合計試合にて実施した。

⑤祝祭・スポーツイベント・ボランティアチーム：アメリカ NGO「アスリート・アライ」、グローバル NGO「GLAAD」とともに、メディア・記者向けのガイドラインの制作・配布を行うとともに、スポーツ界で居場所がないトランスジェンダーにとっての安心・安全を伝えるための動画の日本語版を制作した。また、インクルーシブ・スポーツの実験的企画に監修協力、多様な家族についてのイベントをサポートするなど、外部連携も積極的に行った。
⑥居場所づくりチーム：全国で LGBTQ＋関連施策に取り組む大学のネットワーク「University Diversity Alliance」との協働オンラインイベントや意見交換、新宿エリア内のコミュニティスペース「akta」との情報発信と相互誘客など、つながりを作りセイフティネットを強化した。あわせて、月に 2 回、「トランス・デー」というトランスジェンダー当事者にとっての安心・安全な居場所づくりを推進していてる。
⑦仕組みづくりチーム：世界で初めてオリンピック・パラリンピック組織委員会の「公認プログラム」となったことにより、国際的な発信力が高まり、大会期間中は IOC メンバーや競技団体スタッフだけでなく、世界各国からのメディアが来館し各種言語・媒体での情報発信がなされた。橋本聖子会長とは 8 チーム理事が意見交換も行なった。持続可能な運営体制のために、休眠預金に加え、厚生労働省の自殺防止対策事業交付金を受け、対面型の相談窓口を設置するだけでなく、相談員養成講座、全国 5 都市の LGBTQ＋関連団体と自殺対策団体のマッチング、LGBTQ+の遺族のグリーフケア、啓発資材の自治体担当課への展開など、多岐にわたる事業を展開した。また、理事とスタッフによるリトリート合宿を行い、新代表体制と新法人設立に向けた内部プロジェクトチームも立ち上げた。
⑧レガシー運営チーム：新宿区子ども家庭部男女共同参画課との協働によるオンライン講座、LGBTQ+関連のイベントや記念日などについての SNS 発信、プライドハウス東京レガシー館内・オンラインにおける情報保障の強化を行なった。また、多様な性を象徴するフラッグディスプレイの設置や、新しいフォトスポットとしての階段スペースの装飾、カフェコーナーの充実など、館内のインクルーシブな空間づくりを更に進めた。2021 年 12 月までの総来館者数は 3450 人。

6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

オンラインでのコンテンツを充実するとともに、リアルな施設の来館者に対しては感染予防対策を徹底する。

② 広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☑その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）:「プライドハウス東京レガシー」内の一部什器にステッカーを添付
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） ・NHK「東京オリンピックと LGBTQ を考える」 https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0029/topic032.html ・NHK「【特別ライブ配信】NHK「バリバラ」×プライドハウス東京コラボ企画～好きな人と 好きな場所で暮らしたい～ https://www.youtube.com/watch?v=jCihc8d68BI ・ハフポスト「LGBTQ と「そうかもしれない」若者の居場所に。相談支援がプライドハウス東京でスタート」 https://www.youtube.com/watch?v=XBxHQ84P9Yc ・東京新聞「性的少数者の若者に寄り添う　新宿の情報発信拠点プライドハウス「気軽に話せる場に」　生活面などの悩み相談開始」 https://www.tokyo-np.co.jp/article/108514 ・東京新聞「性に悩む若者らにポジティブな情報を　LGBTQ コミック・エッセイ　学生ら制作へ資金募る」 https://www.tokyo-np.co.jp/article/148405

・東京新聞「レインボーだけじゃない！性はいろいろ、プライドフラッグ」
https://www.tokyo-np.co.jp/article/119296

2.広報制作物等

＜冊子＞

・「Sports for Everyone ～スポーツ組織でできる LGBTQ+インクルーシブな環境づくり～」

・「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会における LGBTQ+アスリートのメディアガイドライン」

・「性的マイノリティ（LGBTQ＋）の自殺対策を自治体で進めていくために　～「自殺総合対策大綱」に基づいて～」

＜動画＞

「プライドハウス東京」公式 YouTube チャンネルにアーカイブ

◎「八方不美人の教えて！レガシー」

・「LGBTQ＋ユース・トークシリーズ」（友達へのカミングアウト、X ジェンダー・ノンバイナリー、クエスチョニング、アセクシュアルやアロマンティック、Youth Talks in English、全 10 本）

・「こころとからだシリーズ」（簡単ストレッチ、メンタルヘルス、コロナ禍だからこそ読みたい本、全 10 本）

・「LGBTQ＋が安心して働ける職場環境づくりシリーズ」（パナソニック、大日本印刷、野村ホールディングス、EY Japan、シスコシステムズ、全 10 本）

◎「いのちの相談窓口」

・「相談窓口紹介ムービー」「トランスジェンダーが生きることについて語り合う」「死にたいほどつらい気持ちを抱えている LGBTQ+ユースのあなたへ」

・「LGBTQ+にフォーカスをあてた対人援助のための自殺対策講座」（LGBTQ+と SOGIE の基礎、LGBTQ+コミュニティが面する危険因子と防御因子、トラウマ・インフォームド・アプローチ、LGBTQ+と依存症と自殺について）

3.報告書等 ・「プライドハウス東京 2022 公式ガイドブック」（2021 年の活動報告を掲載） 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

④規程類の整備に関する報告

1. 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑完了　　☐整備中
2. 整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☐全て公開した　☐一部未公開　☑未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：WEB サイトの仕様変更のため。2022 年 6 月予定。
3. 変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
☐はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☐ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）